学びのつながりを大切にする

敦賀市小中一貫教育

「小中一貫教育」とは

「小中一貫教育」とは、「小・中学校の先生が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程（学校教育の内容を系統立てて配列したもの。カリキュラム）を編成し、系統的な教育を目指す教育（文部科学省）」と位置づけられています。

「敦賀市小中一貫教育」とは

敦賀市では、子どもたちに「勉強して考える力」「内面を豊かにする力」「たくましく生きる力」がバランスよく系統的に身につくよう、平成28年度より「敦賀市『知・徳・体』充実プラン」に基づいた小中一貫教育を進めています。

●「中1ギャップ」の解消を目指し、年間を通じて合同授業を実施しています。

●幼児教育から小・中学校、そして上級学校と続く「学びのつながり」を大切にした教育を進め、「小中一貫カリキュラム」による授業を実施しています。

▲他校の児童と一緒に英語の授業を体験する児童

「中1ギャップ」の解消を目指した合同授業の実施

小学校を卒業した児童が進学した中学校の学習や生活に適応できず、不登校等の問題行動につながる、いわゆる「中1ギャップ」の問題が全国的に課題となっています。

そこで敦賀市では、「中1ギャップ」の解消のために、すべての小学6年生の児童を対象に「合同授業」を実施しています。合同授業では、中学校の学習や生活に慣れ親しむことを目的に、中学校区の各小学6年生の児童が一緒に授業を体験しています。中学校の学習内容を取り入れた授業体験のほか、中学生からの学校紹介や部活動見学などを実施しています。こうした活動を通して、児童が抱く中学校生活への不安を軽減し、進学時の環境変化に対応する「学びのつながり」をサポートしています。

昨年度実施した合同授業後の児童アンケートでは、約9割の児童が「中学校生活への不安がなくなった」と答えています。また、連続して欠席する中学校生徒数は、4月新学期開始直後の3日間と、5月の大型連休明けの3日間で、昨年度よりいずれも欠席者が減少する結果となっています。

▲進学先が同じ他校の児童と課題に取り組む

▲中学校の生徒会活動の説明を受ける児童

合同授業後の児童の感想

・中学校での授業は少し速くなって大変だと思っていたけれど、一度やってみることでその速さにも慣れることができたと思います。

・今までは、英語を話すことを勉強してきたけれど、書くことも必要になることがわかったので、がんばりたいです。

「小中一貫カリキュラム」による授業の実施

敦賀市小中一貫教育では、小学校から中学校までの「学びのつながり」を意識した指導に重点を置いています。「中学校でどういった内容を子どもたちは苦手としているのか。その苦手を克服するために、小学校で丁寧に指導するポイントはどこか」を小中学校の先生が一緒になって考え、小中の学びをつなげることで子どもたちの「わかる」「できる」をより確実なものにしています。

その要となるのが「小中一貫カリキュラム」です。このカリキュラムは、福井大学教育学部附属学園と、敦賀市の先生方が協働で作成したもので、これまでの学力調査結果などから、子どもたちの課題を抽出し、つまずきやすいところを指導のポイントとして整理しています。

▲合同授業で数学の授業を体験する児童

▲小中一貫カリキュラム
（現在は第３弾を作成中）

例えば、算数・数学では、「複雑な図形の問題」に課題が見られたことから、「小中一貫カリキュラム」には、各学年における図形学習の指導ポイントや今後どういった学習につながるかを掲載しています。

「小中一貫カリキュラム」に基づいた授業は、子どもたちの弱点克服につながっており、現在、様々な学力調査で、小中学校ともによい成果を収めています。

今後も、より質の高い授業を提供し、子どもたちの学力向上につながるよう、「小中一貫カリキュラム」を活用した授業に取り組みます。

問合せ先
学校教育課　☎22・8162

平成33年度から角鹿中学校区は「一体型」の小中一貫校になります。

「一体型」の小中一貫校を設置する理由

角鹿中学校校舎の老朽化や児童生徒のより良い学習環境の向上等に対応するため、角鹿中学校区内の4校（敦賀北小、赤崎小、咸新小、角鹿中）を統合した小中一貫校を平成33年度に開校します。

角鹿中学校区の小中一貫校については、これまで様々な検討が重ねられてきました。昨年度は、校舎の施設形態や建設地等の設置に向けた具体的な協議が「角鹿中学校区統合検討委員会」で検討され、本年3月、市教育委員会に対し答申がなされました。これを受け、市と市教育委員会は、同校区に「一体型」の小中一貫校を設置する方針を決定しました。

新設する小中一貫校の特徴

❶施設形態
小・中学校の児童生徒が同じ校舎で学ぶ「一体型」

❷建設地
現角鹿中学校の敷地

❸施設内容の特徴
・特別教室や職員室等を小中学校で兼用するなど、施設機能を集約化
・今後の児童生徒数の増減に対応できる教室等の施設仕様
・同じ敷地内に放課後児童クラブを設置

今後の進め方

地区、保護者、学校の代表者等で構成する「角鹿中学校区小中一貫校設置準備委員会」を設置し、統合の実現に向けた課題の解決や準備事項について検討・調整を行います。

また、各小学校跡地の今後のあり方についても、検討していきます。

問合せ先
教育総務課　☎22・8150